

S C T (文章完成法テスト)
(Sentence Completion Test)

研究生 奥村晴子

* SCT とは・・・1940 年代アメリカの多くの心理学者（ペイン、テンドラーが最初）により研究され、今日まで発展した。完全でない文章（刺激文）を示し自由に補わせ完成させることにより個人のトータルな人間像（知能・性格・意欲・興味・関心・生活史・人生観・心の安定性など）を把握できる。又、被検者に潜在するパーソナリティの力学的な歪みも診断できる。現在では、病院臨床や矯正施設などで心理査定の一つとして使用され、被検者の外的および内的状況を具体的に把握できるテストとして、有効性が認められている。

成人用（60問）・中学生用、小学生用（50問）の3種類があり、使用目的・研究目的に応じて刺激文を自由に作成・設定できる。

* 施行法（注意すべきこと）

- （1）刺激文を見て頭に浮かんだことを、それに続けて書く。
- （2）正解、不正解はない。空欄にも意味がある。
- （3）すぐ思いつかなければ後回しにして良い。
- （4）時間の制限はないがあまり長時間かからないようにすること。

被検者が老人、子供、精神病患者などで筆記に困難な場合には、口頭で反応してもらう方法も可能である。

* 評価法・・・スコアリング（得点化）は行わない。

形式分析＝反応の長さ、反応時間、文法的誤りなどを指標とする。

内容分析＝全体を読んだ印象だけに頼る場合と、あらかじめ設定しておいたカテゴリーに分類する場合とがある。（下の表 参照）

SCT に表された情報から生きたパーソナリティを再現し、それを客観的に判断する能力を身につけることが必要である。

	P a r t	P a r t
知的側面	14	15
情意的側面	2, 22	4, 22
指向的側面	8,10,11,12,16,19,23,28	5,7,13,14,17,27,28,29
力動的側面	4,6,7,24,30	2,19,21,24,25,30
身体的要因	15, 27	9, 20
家庭的要因	3,5,9,17,21,25	1,6,12,18,23,26
社会的要因	1,13,18,20,26,29	3,8,10,11,16

各刺激文と評価項目の主な関係 (槇田 1995)

評価の出し方

、パーソナリティ

知的側面

- ・ 精神的分化・精神面が分化しているか、未分化であるかという知的側面についての全体的な把握。精神発達の全般的なレベルを見る。理論的な面において進んでいるか、実際の面において優れているかなど。
- ・ 見通し（時間的・場面的）・見通しがいかにきくか。リーダーシップもさぐることができる。
- ・ 評価の客観性・いかに客観的に自己や環境を評価できるか、そのような批判的な部分の有無、それから生じる自信・安定の強さ。

情意的側面

- ・ 分裂気質（S）・孤独性、鈍感、思考性、空想性、無関心、冷淡、利己的
- ・ 循環気質（Z）・融和性、世話好き、同情的、お人好し、社交性、活動性
文章は一般的に歯切れの良い、ぶっきらぼうな感じ。
- ・ 粘着気質（E）・几帳面、融通がきかない、執拗、興奮性、視野狭小、徹底性・
文章は歯切れが悪く同じ事を何度も言うにも回りくどい。
- ・ ヒステリー気質（H）・自己顕示性、勝ち気、甘えん坊、わがまま、好き嫌い・
派手で歯の浮くような文章を書く。誇張的な形容詞が多く入り、文学・絵画・詩人の名前等が出てくることが多い
- ・ 神経質（N）・心配性、非持続性、自責感、気兼ね、意識過剰、忍従、愚痴っぽい。文章は弁解が多い。

指向的側面

目標、生活態度、価値観、人生観等主にその人の心がどの面に指向しているかを評価する。

力動的側面

その人の内的状態が安定しているか、不安定であるかの問題。どのようなコンプレックスがあるか、また特に不安を持っているとか攻撃的な傾向はないかを評価する。

、決定要因

身体的要因

容姿が特に優れているか劣っているか、それがその人のパーソナリティに影響を与えるほどかどうか等を分析する。体力、健康についても同様。

家庭的要因

- ・ 家庭ならびに生育歴。家族構成、父の性格、母の子供に対する態度はどんなか、特に誰かに偏愛を持つことはないか。家庭の雰囲気は調和的か否か。生い立ちは？
- ・ 生活水準、社会的地位、経済的な条件はどうか。

社会的要因

対人関係、社会的な環境。どんな仕事をし、どんな地位を占めているか、それに耐えているか、不満か。

- * 反応文の長さは知能が低いと短い。若い（10代）特に男性が短い。中年以降も短い。書体は、躁状態では乱雑で大きい文字。気質により字の特徴が出る。

心理検査

研究生 奥村晴子

現在、職場に学校に心理テストの応用範囲は広がりつつある。そして、幾多の知能テスト、性格テスト、適性テスト等が実用化されている。診断・治療にテストを用いたり、問診を用いたりするが、実際に診断を下すには種々の立場を考慮した上で最も適切な処理を行うべきである。テストの使用、解釈についても同様である。そのためには、これを最も合理的に用いるために、診断の対象であるパーソナリティを把握しておくべきと言える

* わが国における各種心理検査の使用頻度 (小川,ピオトロフスキー 1986)

- 1位 ロールシャッハ法 → 10枚の図版、性格・人格テスト
- 2 S C T → 性格・人格テスト、投影法
- 3 バウム・テスト → 性格・人格テスト、投影法、1本の木を描く
- 4 W A I S → 知能テスト(16才以上)
- 5 ビネー式検査 → 知能テスト、田中式と鈴木式
- 6 Y - G → 性格・人格テスト、
- 7 W I S C - R → 知能テスト、小児科のてんかん手術後に使用
- 8 H - T - P → 性格・人格テスト、投影法、家と木と人を描く
- 9 P - Fスタディ → 性格・人格テスト、吹き出しに入れる
- 10 ベンダー・ゲシュタルト・テスト → 知覚・感覚・運動テスト
知覚のゆがみ(認知)、単純に図を隣に写す

今回、多数集団に簡単に施行でき、短時間で数多くの人間のパーソナリティを広く浅く知ることができる S C T (文章完成法)について調べてみた。

投影法・フロイトのいう精神分析的な考え方

自分で意識しない人格構造の深層により支配される力動的な方法

* 参考文献 *

「 精研式 文章完成法テスト解説 」

佐野 勝男 ・ 槇田 仁 共著

金子書房

「 心理臨床大辞典 」

培風館

SCT評価用紙

2000.6.21

研究生

奥村晴子

パーソナリティ

1 知的側面

精神的分化の度合いは平均的であり、見通し・客観性においても安定し落ち着いている。

2 情意的側面

性格分類は典型的な循環気質であり、特性は活動的・社交性・行動性であり、エネルギーも+といえるであろう。

3 指向的側面

生活態度はどん欲・活動的な面を多く持ち合わせている反面、根気がなく現状に満足するややネガティブな面ものぞかせている。
女性としての甘えに対する抵抗感が強い。

4 力動的側面

特に目立ったコンプレックスはなく、内的にも安定している。
決定要因

5 身体的要因

健康に自信をもちながらも、容姿にはやや気にかけているところがある。

6 家庭的要因

家族は調和的であり、生育歴も特に問題なし
生活水準も平均的である。

7 社会的要因

対人関係は良好であり、仕事に対し特に不満もないが欲もない。

* 全体的な特徴

反応文が短く、しかも反応時間も短い。
否定的な見方はほとんどない。
中年のあっさり気質がうかがえる。

S C T 評価方法

研究生 奥村晴子

次の段階を試みるにより評価に習熟できる。

1．知人のデーターを見る

すでによく知っている人のS C Tを読むと、いかにもその人らしいとか、あるいはその人らしい考え方がよく出ていると感じる。また、あの人にこんな一面があったかと興味をひかれる。これが評価に習熟する第一歩である。

読みながら被検者のイメージがある程度浮かぶようになれば相当習熟したと言える。

2．横に見る。

一般の傾向を知るためには、各刺激文について何十人かのケースを横に読み比べるとよい。傾向が把握できるとともに、その特異性もわかり、評価にある程度の自信と客観性を持ちやすくなる。

3．各刺激文の各評価項目についての出現頻度「ノーマティブ・スタディ」を参考にする。

SCTに関する討論まとめ

2000.6.27

研究生

奥村 晴子

* 実施後の感想

- ・ 抵抗なく実施でき、楽しかった。しかし、「子供の頃の私は・・・」の設問に対しやや時間がかかった。(新谷先生)これは、遠い昔の事だからとを感じる部分と、本人の特徴がそのまま出やすいからだと考えられる。
- ・ ひとりひとりの生徒を知るのに有効であると感じるが処理は大変である。(小竹先生)どんな考えを持ち、家族構成はどうか、「争い」「死」への考え等、教師の知りたい情報を手にいれることができる。話さないが書ける生徒もいるのではないか。
- ・ 出現頻度の%はどんな意味があるのだろうか？(松田先生)調査の時期や対象の団体によりかわってくるが、あくまで一つの参考として活用したい。書かれた中身で本人のことを知れるがパーソナリティ全体を知ることは難しい。
- ・ 実施方法を標準のやり方とかえることにより(たとえば一気にやらず間隔をおくなど)効果や結果は変わってくるのだろうか？(奥村)違う方法で実施したことや違う結果が出てくることを理解しておくことが大切である。

* まとめ

特徴をしっかり押さえておくべきである。

- ・ 質問紙であり、投影法である。→無意識の深層心理が出やすいが、浅くもなる
- ・ トータルな人間像を知る情報が多い。
- ・ 人を見るあり方と同じで、すべてを見ることが出来るわけではない。
- ・ 同じ様な内容が繰り返し聞かれる事により違う側面、深い側面が出てきやすい
学校現場での有効な利用のしかた
- ・ 知りたい側面に応じてピックアップしても良い
(ex. 家庭的要因を知りたい→ノーマティブ・スタディの上位の刺激文 など)
- ・ パート1だけという利用方法もある
(小学校低学年の子供だと集中力が切れる、全体の分量が多い など)
- ・ 集団で一斉にするには困難さもある。(所要時間の差がある為)
学校現場で実施する時に留意する事
- ・ 扱い方・使用目的を事前に生徒に連絡し、安心して実施出来るよう、また扱い方の重要性が生徒に伝わるよう配慮すること。
- ・ 教師は情報を引き出させた責任を感じ、名前等書かせた場合特に注意する。
- ・ 書いたことに対する「評価」ではなく“こうなんだね”と確認すること。
- ・ 書いてないことには触れず、“ここは書いてないんだね”位に留める。
- ・ ポジティブな返し方に努める。
- ・ 「どんなところが書きにくかった?」「長いのによくがんばったね」「きれいに書けたね」「こんなふうに書いてくれたんだね」などの言葉がけも良い。
- ・ 避けるべき箇所か、触れるべき箇所かを見極める判断をして共有すること。
それには言葉が必要。